

地震一口メモ No. 186

子どもたちと一緒に、地震と津波について学ぼう！②-津波編-

前回に引き続き、どのようなことを一緒に練習・学習しておくが良いかをご紹介します。

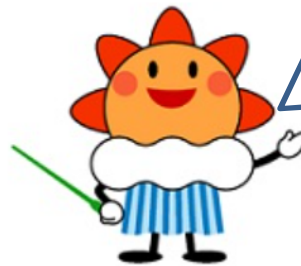
●どんな時に津波から避難する？

海の近くで、①津波警報等を見聞き、②大きな揺れを感じる、③長時間の揺れを感じる、④ゆったりした揺れを感じる、のいずれかに当てはまったら、すぐに避難してください。

①はもちろんですが、②、③、④を目安にご自身の判断で避難することもとても重要です。なぜなら、津波の伝わる速さは海岸付近で時速 36km（100mを 10 秒で走る速さ）ほどであり、子どもはもちろん、大人の足でもすぐに追い付かれています。少しでも危険だと思ったらすぐ避難し、安全を確保してから正確な情報を集めてください。

【長時間の揺れについて】あくまでざっくりとした目安ですが、マグニチュード（地震の規模）と揺れの継続時間の関係は、マグニチュード 6 では数秒程度、マグニチュード 7 では 10 秒程度、マグニチュード 8 では 1 分程度、マグニチュード 9 では 3 分程度となり、規模が大きくなるにつれて揺れも長時間になります。これらから、**揺れが数秒続くときは直ちに海から上がる、10 秒続くときは海岸からも離れる、数十秒続くときは高台を目指す**、という避難行動を最低ラインとして考えてください。

【ゆったりした揺れについて】大きな地震ではゆったりした揺れが発生しやすいと言われています。小刻みな揺れでなく、船に乗っているようなゆったりした揺れを感じた場合は、大規模地震の可能性があるので、すぐに海から避難しましょう。



「揺れたら海から上がる、10 秒続いたら海岸から離れよう！」というのは、小さい子にも分かりやすい指標かもしれません

●津波からすぐに避難するためには

すぐに避難を開始できるよう、日頃から避難場所を考えておくこと、子どもたちに避難場所を伝えておくことが大切です。自宅が海に近い場所にある場合は、近くの高台や津波避難ビルなどを避難場所として教えておきます。津波避難ビルは各自治体のハザードマップや公式ホームページなどで確認ができます。

また、自宅が海から遠い場合でも、旅行などで海辺を訪れることもあるかもしれません。そういった場合も、いざという時に備えて避難場所を確認し、子どもたちに伝えておきましょう。

津波からの避難は、より高く、より海から遠く離れた場所へ逃げてください。また、津波は川を遡上する可能性があるため、川からも離れてください。

●津波避難をアニメで学ぶ

東日本大震災にて、岩手県釜石市では大きな津波に見舞われましたが、小中学生の多くが避難して助かりました。このことは、『釜石の奇跡』として知られています。

この時の避難の様子を再現したアニメーションを、気象庁ホームページにて公開しています。「気象庁 津波からにげる」で検索していただき、ぜひ子どもたちと一緒にご覧ください。



津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tsunami_dvd/anime.html